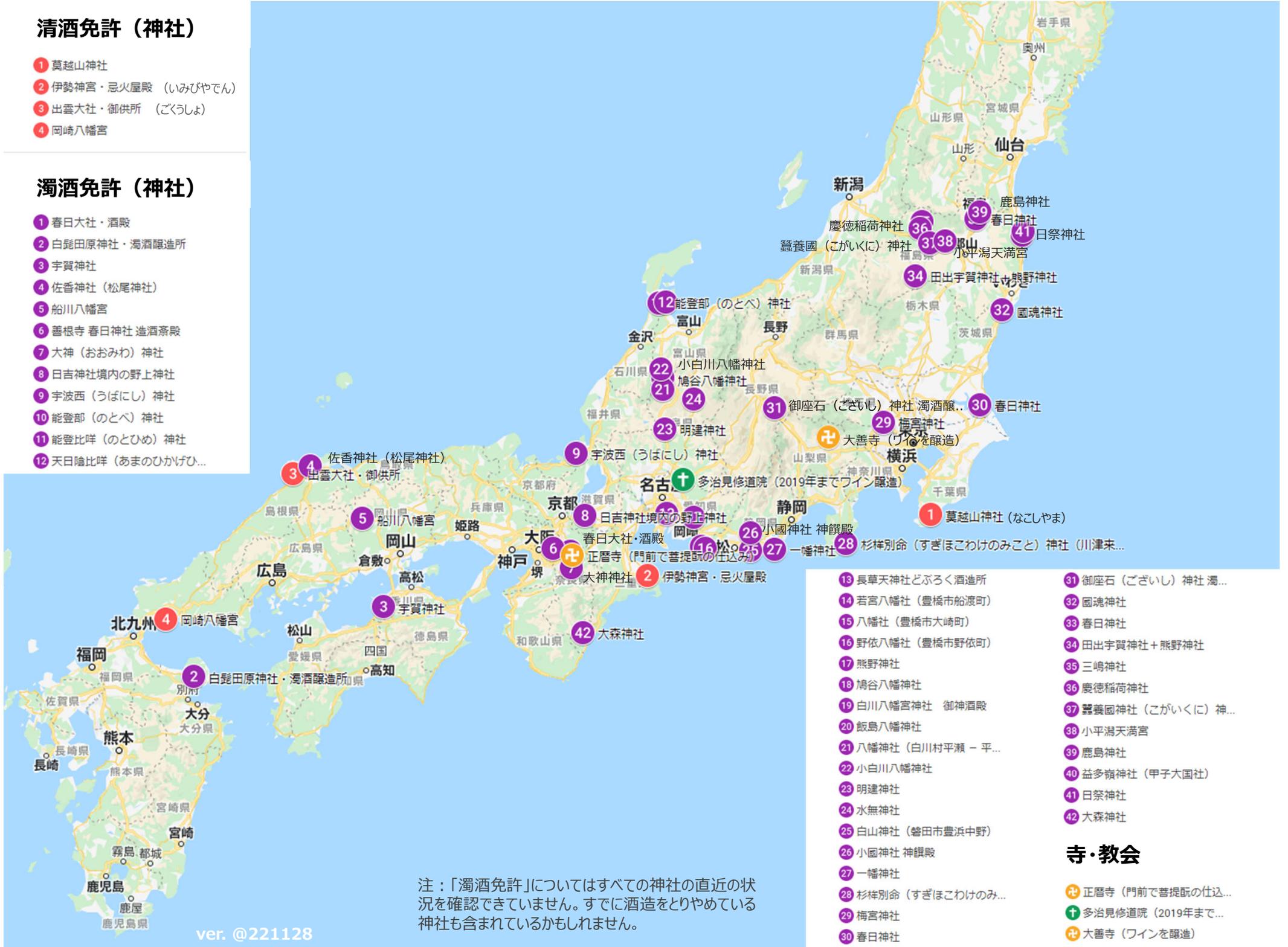


## 清酒免許（神社）

- 1 莫越山神社
- 2 伊勢神宮・忌火屋殿（いみびやでん）
- 3 出雲大社・御供所（ごくうしょ）
- 4 岡崎八幡宮

## 濁酒免許（神社）

- 1 春日大社・酒殿
- 2 白鬚田原神社・濁酒醸造所
- 3 宇賀神社
- 4 佐香神社（松尾神社）
- 5 船川八幡宮
- 6 善根寺 春日神社 造酒斎殿
- 7 大神（おおみわ）神社
- 8 日吉神社境内の野上神社
- 9 宇波西（うばにし）神社
- 10 能登部（のとべ）神社
- 11 能登比咩（のとひめ）神社
- 12 天日陰比咩（あまのひかげひ...）





# お酒を醸す神社仏閣 ~~44~~+α のリスト

## 46

2021年7月資料作成・2021年11月修正・2022年5月修正・2022年11月修正

このリストはできるだけ網羅的に情報を集めて作成したのですが、誤りがあるかもしれません（末尾の注記参照）。誤りやお気づきの点がありましたら、当社にご連絡ください。

### 酒造免許を持つ神社 (44 → 岡山・埼玉を追加して46)

住所は、同名神社がたくさんあるなど、神社名だけでは同定しにくい場合のみ記載

免許取得年：※ = 明治29年 ※※ = 明治30年 それ以外は取得年を記載（明治29・30年が多いのはこの年にお神酒と言えども酒税法の範疇になると定められたからで、各神社でははるか以前から連続と酒造を行っていた場合がほとんど）

太字に下線：一般の人が参加して、醸されたお酒を飲むチャンスもある「どぶろく祭り」がある神社で、その月日も記載

寺・教会  
の酒造  
(+α)

(参考)  
かつての僧坊酒

| 北海道 | 清酒免許 = 4                       | その他の雑酒の免許 = 40 +2                        | 住所は、同名神社がたくさんあるなど、神社名だけでは同定しにくい場合のみ記載<br>免許取得年：※ = 明治29年 ※※ = 明治30年 それ以外は取得年を記載（明治29・30年が多いのはこの年にお神酒と言えども酒税法の範疇になると定められたからで、各神社でははるか以前から連続と酒造を行っていた場合がほとんど）<br>太字に下線：一般の人が参加して、醸されたお酒を飲むチャンスもある「どぶろく祭り」がある神社で、その月日も記載 |   |               |                  |                       |           |                         |                            |
|-----|--------------------------------|--|---|---|---------------|------------------|-----------------------|-----------|-------------------------|----------------------------|
| 青森  |                                |  |   |   |               |                  |                       |           |                         |                            |
| 岩手  |                                |  |   |   |               |                  |                       |           |                         |                            |
| 秋田  |                                |  |   |   |               |                  |                       |           |                         |                            |
| 宮城  |                                |  |   |   |               |                  |                       |           |                         |                            |
| 山形  |                                |  |   |   |               |                  |                       |           |                         |                            |
| 福島  |                                | <b>国魂（くにたま）神社</b> ：※<br>※ <b>10月第二日曜</b> | 春日神社（福島市黒岩）：※※  | <b>田出宇賀神社</b><br>+熊野神社（隣接）：※<br>※<br>7月21-23日 | 三島神社（喜多方市）：※※ | 稲荷神社（喜多方市慶徳町）：※※ | 蚕養国（こがいくに）神社：※※ 蠶養國とも | 小平湯天満宮：※※ | 鹿島神社（福島市）：※※<br>10月第4日曜 | 益多嶺神社：明治32年免許取得<br>日祭神社：※※ |
| 新潟  |                                |  |   |   |               |                  |                       |           |                         |                            |
| 長野  |                                | <b>御座石（ございし）神社</b> ：<br>大正14年免許取得 4月27日  |   |   |               |                  |                       |           |                         |                            |
| 茨城  |                                | <b>春日神社（行方市青沼）</b> ：<br>※※ 11月23日        |   |   |               |                  |                       |           |                         |                            |
| 千葉  | <b>莫越山（なごしやま）神社</b> ：昭和15年免許取得 |  |   |   |               |                  |                       |           |                         |                            |
| 埼玉  |                                | <b>梅宮神社（狭山市）</b> ：免許取得年不明<br>2月10・11日    |   |   |               |                  |                       |           |                         |                            |

大間町にある「崇徳寺」では、「バイコードリンク」の社名で2020年に免許を取得、地ビールをつくる。「麦雫」ブランド。（地図には非表示）









(追加資料)

# 近世まで醸していた神社 + お神酒を供給する蔵元

2021年8月資料作成 2022年4月修正

資料は正確を期して製作したのですが、誤りやお気づきの点がありましたら、当社にご連絡ください。

## 「しとぎ(粢)からお神酒(おみぎ)を造っていた」神社

明治29-30年以降、お神酒といえども酒造免許が必要になったので、多くの神社がお神酒づくりをやめた。しかしその後も、あまり公にはせずにお神酒内製を継続した神社もあった。麴を使ったもののほか、昭和期でも口噛み酒が多くあったようだ。アルコール分が低いうえ、お供え用だったので、黙認されたのかもしれないと思う。当然、そのような神社のリストは存在しない。しかし、偶々、しとぎ(粢)からお神酒を造っていた神社を調査された資料(出典は末尾記載)があるので、ここではそれを引用する。

しとぎ(粢) = 白米を水に浸し、臼(うす)で挽(ひ)いて(湿式粉碎という)、米粉にして固めたもの。外観はお餅のよう。古代からが神のお供えする神饌(しんせん、神へのお供え)として用いられた。

SH : しとぎ(粢)からお神酒を造っていたという伝承があるが詳細は不明

SK : しとぎ(粢)からお神酒を造っていた 口噛みだった

SI : しとぎ(粢)を稲わらにくるんで稲由来の麹菌を生やし、蒸米や餅に混ぜてお神酒をつくった

|     |       |   |
|-----|-------|---|
| 北海道 | ----- | <このセルは「しとぎ」ではない> 「紋別アイヌの口噛み酒」は、「琉球の口噛み酒」(表の末尾参照)と共通点があると言われる(どちらも黒潮文化圏)。これはアイヌ民族の神事のお酒で、ここで主題としている日本の神社のお神酒とは意味合いが違うが、網羅的資料とするためここに掲載しておく。迫害を受けながらも、アイヌの神事の酒造は大正・昭和まで存在したと思われる。 |
|-----|-------|---|

|    |  |  |
|----|--|--|
| 青森 |  |  |
| 岩手 |  |  |

|    |         |  |
|----|---------|--|
| 秋田 | 大平山三吉神社 | SK<br>男子青年による口噛み酒をつくっていた 醗酵桶に添える魔よけの刀をGHQに接収されたのでやめた(すなわち、戦後まで続いていた。なお、男子の口噛みは珍しい) |
|----|---------|--|

|    |  |  |
|----|--|--|
| 宮城 |  |  |
|----|--|--|

|    |           |    |
|----|-----------|----|
| 山形 | 金山神社(西川町) | SH |
|----|-----------|----|

|    |        |    |
|----|--------|----|
| 福島 | 伊須佐美神社 | SH |
|----|--------|----|

|    |  |  |
|----|--|--|
| 新潟 |  |  |
|----|--|--|

## 有名神社のお神酒を供給する蔵元について

実際に訪問した神社の記録。兵庫県在住者なので、記録が西日本中心となっています。記述内容は筆者による。

★ = 「神社仏閣のお酒」の写真資料(↓)に登場する神社

[https://kitasangyo.com/pdf/archive/sake-info/Sake\\_Shrine.pdf](https://kitasangyo.com/pdf/archive/sake-info/Sake_Shrine.pdf)

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

|            |   |  |
|------------|---|--|
| 鹽竈(しおがま)神社 | 「阿部勘酒造」(宮城)<br>阿部勘酒造は鹽竈神社(塩竈あるいは塩釜とも)の門前に、お神酒をつくる蔵として1716年創業。以来300年以上鹽竈神社のお神酒をつくる。なお鹽竈神社は「一ノ蔵」(宮城)と「佐浦・浦霞」(宮城)もお神酒としているそう。(人が亡くなったときなど、長年では避けられない「けがれ」の時の備えだそう) |  |
|------------|---|--|

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|

|        |  |  |
|--------|--|--|
| ★ 弥彦神社 | 「弥彦醸造」(新潟)<br>新潟の得意先が多いのでたびたびお参りする。弥彦酒造は弥彦神社のお神酒蔵。神社から1kmほど。 | ★ 「宝山酒造」(新潟)<br>社務所で売られる宝山酒造の一合のお神酒は、当社のK2壺。 |
|--------|--|--|



|     |   |  |  |
|-----|---|--|--|
| 奈良  | 大將軍神社 米粉と酒で練る                           | 高天彦神社 SH   | 浄見原（きよ SK<br>みがはら）神 今はしとぎに清酒<br>社（吉野町南 と砂糖を加え醴酒<br>国栖） とする |
|     |   |  |  |
| 京都  | 上賀茂神社<br>（加茂別雷<br>（かもわけい<br>かつち）神<br>社） | <このセルは「しとぎ」ではない> 大正時代、境内に醸造所が設けられ、大嘗祭（天皇即位後はじめての新嘗祭）の酒造を行った。東京から加島十兵衛一宮中御用酒をつくっていた浅草の加島屋一が呼ばれて醸造に当たり、白酒・黒酒をつくり、京都御所に収めた。<br>(出典：「神様が宿る御神酒」大浦春堂著、神宮館、2017年7月初版) |  |
| 大阪  |   |  |  |
| 和歌山 |   |  |  |
| 兵庫  |   |  |  |
| 岡山  |   |  |  |
| 広島  |   |  |  |
| 鳥取  |   |  |  |

|                                 |  |   |
|---------------------------------|--|---|
| ★<br>春日大社                       | <p>「奈良豊澤酒造」（奈良）</p> <p>別リストの通り春日大社は酒造免許を持っている。境内に「酒殿（さかどの）」があり、千年以上にわたって連綿とお神酒を醸造している。酒殿は、40年ぶりの大規模補修や屋根の葺き替えが2012年に終了し新しく見えるが、現建物は1632年造替という古さで、「現存する最古の酒造所」とする資料もある。</p> <p>お神酒の酒造は、明治以前は神官が行い、明治以降は酒造業者に委託して行われている。現在は奈良豊澤酒造に委託されていて、春日大社が支給する米を使って白酒を醸造している。</p> <p>その奈良豊澤酒造が、参拝者向けのお神酒も作る。</p>    | <p>「今西酒造・三諸杉」（奈良）</p> <p>「志るしの杉玉」で有名な大神神社。別リストの通り、大神神社自体も酒造免許を持っていてお神酒の濁酒をつくるが、清酒のお神酒は今西酒造のもの。</p> <p>大神神社の参道に今西酒造（1660年創業）の店がある。お酒をつくる本店も徒歩5分ほどと至近。「宮城・塩竈神社と阿部勘酒造店」、「香川・金刀比羅宮と西野金陵」と同じ関係。「奈良・榎原神宮と喜多酒造」も同じだろう。ただ、今西酒造は創業がとても古いだけに、「一番歴史の長い神社-蔵元関係」ではないか。</p> <p>余談ながら、フェノロサが絶賛したこと有名な聖林寺の十一面観音は、神仏分離前は大神神社の神宮寺の大輪寺（現在は廃寺）の本尊だった。寛保二年（1742年）、今西酒造の当主は十一面観音の天蓋を寄贈したそだ。</p> |
| 榎原<br>（かしはら）<br>神宮              | <p>「喜多酒造・菊御代」（奈良）</p> <p>榎原神宮は旧官幣大社で広大な敷地。喜多酒造は榎原神宮と至近、公園を挟んで隣接する。榎原神宮の神饌田の米を使った御神酒「かもやまと」を造り始めたのは近年だが、以前から喜多酒造は参詣者のお神酒だった。</p>  |   |
| ★<br>伏見稲荷                       | <p>「松竹梅」（京都）ほか</p> <p>伏見稲荷は、何年も続けて「外国人が選ぶ観光スポット、日本1位」となっている、日本有数の観光地でもある。稲荷大社の下賜品のお神酒は松竹梅だが、稲荷山の各所で販売されるお神酒は、月桂冠（京都）、キンシ正宗（京都）、山本他家（京都）、沢の鶴（兵庫）など数銘柄ある。</p> <p>稲荷山で売られる量を含めると、おそらく、「お神酒がもっとも売れる神社、全国1位」であると思う。</p>   |   |
| ★<br>住吉大社                       | <p>「榎平酒造」（山形）のお神酒銘柄「住吉」</p> <p>東京の小網神社の事例と同じく、地元ではなく遠方、山形の酒をお神酒とする。いわれは知らない。</p>   |   |
| ★<br>西宮戒<br>（えびす、<br>ゑびす）<br>神社 | <p>「えべっさんの酒」</p> <p>いわゆる、お神酒とは若干性格が違うが、「十日えびす」などで販売される。灘・西宮郷の蔵元数社が共通の表ラベルで作るお酒で、近年の例では、扇正宗、灘一、大関、灘自慢、喜一、白鹿、金鷹、白鷹、島美人。買う時はどの蔵の製品かはわからない。裏ラベルを見て初めて製造者がわかる。</p> <p>西宮戒は灘五郷の蔵元や大阪神戸の商売人の信心がとても厚い。私も、子供のころは親に連れられ、大人になってからは自分で、この50年ほど毎年欠かさず1月10日の「十日えびす」に参詣し、「商売繁盛の笹」をもらっていたが、2021年はコロナで初めてお参りできなかった。</p> |   |
|                                 |  |   |
|                                 |  |   |
|                                 |  |   |

|     |   |   |                                    |
|-----|---|---|------------------------------------|
| 島根  | 横田神社 SI   | 鎌倉神社                                      | 湯立の後、酒造り                           |
| 山口  | 出雲神社 (山口市徳地堀) SI<br>その後、米粉と米麴   | 八城神社 SH                                   |                                    |
| 香川  |   |   |                                    |
| 徳島  |   |   |                                    |
| 愛媛  |   |   |                                    |
| 高知  |   |   |                                    |
| 福岡  | 嘯吹八幡 (うそぶきはちまん) 神社 SK   | 天野天満宮 SH                                  | 玉垂神社 (みやま市瀬高町) SI<br>明治には甘酒麴で濁酒造った |
| 佐賀  |   |   |                                    |
| 長崎  | 竜神社 SH  | 今山神社 (松浦市福島町) SI<br>大正末期まで継続、その後は市販の米麴を利用 | 山之神社 SH                            |
| 大分  |   |   |                                    |
| 熊本  |   |   |                                    |
| 宮崎  |   |   |                                    |
| 鹿児島 | 稲荷神社 (いくつかある稲荷のうち、どこのか不明) SH  | 大年神社 SH                                   | 日枝神社 SH                            |
| 沖縄  | <p>&lt;このセルは「しとぎ」ではない&gt; 沖縄、石垣、与那国、奄美 (奄美は鹿児島ではあるが) などの御嶽 (うたき) で、未婚女性による口噛み酒のほか、大麦を用いたもの・麴を用いたもの・甘藷由来など様々なお神酒が大正・昭和まで存在した。口噛みのお神酒は「神御気 (かみき) 」ともいわれた。これらは、日本と言うより、琉球の文化と言うべきだろう。奄美には今も「みき」という紙パック入り米飲料がつくれる。ノンアルコールだが、かつては口噛みだった。お神酒 (みき) に通じる。</p> |   |                                    |

|           |   |
|-----------|---|
| ★<br>出雲大社 | <p>「旭日酒造」(島根) のお神酒銘柄「八千矛」<br/>大社内の御供所で造られる清酒は祭神である大國主大神のみに供え、その他の神々には「八千矛 (やちほこ=大國主の別名) 」という清酒を供える。「八千矛」は出雲大社至近の古川酒造の銘柄。古川酒造の先祖は出雲大社で造酒司 (さけのつかさ) 。天保年間 (1831年~1845年) に酒造業に転じたが、お神酒造りを続けた。古川酒造の廃業に伴い、2013年から、同じく出雲にある旭日酒造が「八千矛」の銘柄を引き継ぐ。参拝者へのお神酒としても販売。</p> |
| 金刀比羅宮     | <p>「西野金陵」(香川)<br/>階段の手前の参道に西野金陵の酒造の本店がある。琴平の門前での酒造開始が1789年。以来200年以上、金刀比羅宮のお神酒を作り続ける。</p>  |
| 太宰府天満宮    | <p>「ニッカウヰスキー門司工場」の「お神酒・梅酒」<br/>菅原道真が梅を愛したという伝説にちなんで、梅酒。境内の梅の木からとった梅の実で仕込むそう。</p>  |

このリストは「新版・日本酒の起源」上田誠之助 八坂書房 2020年1月初版 (オリジナルは1999年刊) による。上田誠之助 (故人) : 九州大学・応用微生物学の教授で、「しとぎ (糨) 」がお神酒や日本酒の起源の一つである、と主張され、口噛み酒についても様々な研究をされた。  
「日本酒の発祥はしとぎ」とは、「ビールの発祥はパン」(古代エジプト) といわれることと好対象をなすのではないと思う。  
平成になって神社本庁が、全国の神社8万社に神饌の種類を調査、そのなかで「しとぎ」を今も神饌としている神社765社に上田氏がアンケートを送り、「しとぎからお神酒をつくっての伝承がある」との回答を得た約20社が上のリスト。何社かは実地調査され、お神酒の作り方を調べられた。お神酒を作っていた時期の記載はないが、明治・大正・昭和のはなしである。

(注) この色のセルの記述は、上田誠之助の著作からの引用ではない。

[kitasangyo.com](http://kitasangyo.com)